

日本語版 Physical Appearance Perfectionism Scale の作成

——信頼性の検討——

○久原 璃子・#高野 裕太・宮崎 由樹

(福山大学人間文化学部心理学科)

人は仕事や勉強などに取り組む際に、完璧を目指して取り組むことがある。過度に完全性を求めることは完全主義と呼ばれる (桜井・大谷, 1997)。こうした完全主義は領域固有なものである。例えば、勉強に対しては完全主義を示す個人であっても、運動に対してはそうではない場合が挙げられる。

完全主義の対象領域の中には容姿に対するものもある (Yang & Stoeber, 2012)。容姿に対する完全主義傾向は、全般的な完全主義傾向より、摂食障害との関連が高いと言われる (Stoeber & Yang, 2015)。コロナ禍において、摂食障害の有病率がそれ以前に比べて 1.6 倍に増加したと言われる昨今 (国立成育研究所, 2021)、容姿に対する完全主義を定量化できる日本語版尺度を開発することは重要である。

容姿に対する完全主義を測定するための尺度として Physical Appearance Perfectionism Scale (PAPS) がある (Yang & Stoeber, 2012)。PAPS は英語版と中国語版しか開発されておらず、日本語版はまだない。そこで本研究では、日本語版 PAPS を作成し、その信頼性をまずは検討した。

方法

参加者 調査を始める前に、COSMIN (佐藤・土屋, 2022) を参照し 100 名以上の参加者を募ることとした。この計画に基づき、最終的に大学生 101 名 (男性 46 名、女性 55 名、平均年齢 19.35 歳) を分析対象とした。

手続き 稲田 (2015) のガイドラインに沿って尺度翻訳を行った。本研究では再検査信頼性を検討するため、

再検査法を使用した信頼性係数の測定を行った。そのため、調査は同一の参加者に対して 2 回繰り返した。実施間隔は 2 週間以上あけた。参加者は、日本語版 PAPS (12 項目; Table 1) に対して、5 件法 (1. 全くあてはまらない; 5. 非常にあてはまる) で回答した。

結果

信頼性を検討するために、相関分析を行った (HAD ver.17: 清水, 2016)。その結果、第 1 因子である不完全さへの懸念で $r = .873$ 、第 2 因子である完全さへの願望で $r = .774$ 、PAPS 全体では $r = .728$ と高い相関が見られた ($ps < .001$)。

考察

本研究では日本語版 PAPS を作成し、その信頼性を確認した。パーソナリティ尺度における再検査信頼性係数は、目安として .70 以上で十分な信頼性を備えていると判定される (小塩, 2016)。したがって、PAPS 日本語版の信頼性が確認されたと言える。

なお、信頼性の検討だけではなく、妥当性の検討も並行して進めており、日本語版 PAPS の因子構造はオリジナル版 PAPS の 2 因子と異なり、3 因子構造となる可能性がある。この相違については現在検討中である。

Table 1. 日本語版 PAPS の質問項目一覧

因子	番号	項目内容
第1因子	項目1	自分の容姿に満足していない。
第2因子	項目2	誰から見てもスタイルが完璧だったら良かったのと思う。
第1因子	項目3	どれだけ着飾っても(おしゃれしても)自分の容姿に満足したことはない。
第2因子	項目4	自分が魅力的に見えることを望んでいる。
第1因子	項目5	自分の容姿が良くないのではないかと心配になる。
第2因子	項目6	他の人に自分の容姿を褒(ほ)めてもらいたい。
第2因子	項目7	他の人に自分の魅力を分かってもらいたい。
第1因子	項目8	自分の容姿をガラッと(180度)変えることができれば良かったのと思う。
第1因子	項目9	自分の容姿は望んでいるものとはほど遠い。
第1因子	項目10	自分の容姿に対する他の人の評価が気になる。
第1因子	項目11	自分の容姿の欠点についてよく考えてしまう。
第2因子	項目12	自分がかっこよければ/美しければ良かったのと思う。

Note:第1因子不完全さへの懸念項目1,3,5,8,9,10,11 第2因子完全さへの願望項目2,4,6,7,12